

現代短歌分類辭典

第八十一卷

津 端 亨 編 纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辞典

第八十一卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

81

昭和五十八年三月廿日発行 定価二、〇〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端

亨

〒111

東京都台東区鳥越一―十一―八

発行所

現代短歌分類辞典刊行所

代表者 津 端

亨

振替、東京 三―九三一―四
電話 〇三―八五一―九八六九

目

次

(第八十一卷)

	歌数	頁数		歌数	頁数
いつか	三	一	いつかうに	七	二
一 荷	三	四	一 角	六	三
一 家	六	〃	一 月	一	六
いつかあまり	七	六	一ヶ月前	一	〃
一 介	六	七	五日後	一	〃
一 階	八	〃	五日頃	一	〃
伊豆街道	一	八	伊豆ヶ崎	一	〃
五日市	一	〃	五重ね	二	〃
五日市街道	一	九	いつかし	九	元
一家一族	一	〃	厳 櫃	二	〇
一 校	一	〃	いづかしーがーね	二	〇
一 行	七	〃	いづかしからーず	一	三
いつかう	二	二	いつかしき	三	〃
一向宗徒	一	〃	いつかしく	三	四

いつかしさ
 いつがしーぬ
 いつかしみ
 一箇所
 いつかしら
 一家心中
 一族
 いづかた
 伊豆ヶ岳
 いづかたはあれ
 一喝
 五日月
 いつかつーしーさる
 いつかつーしーて
 いつかつーせーられーて
 いづ可津羅木
 いつかーと

一 一 一 一 一 三 四 一 一 一五 五 一 二 九 一 一 三

" " " " 四 " " " 元 三 " 元 六 " " " 六

五日十日
 いつかな
 いつーかなし
 いづがねーの
 一箇年
 五日の月
 いつーかーは
 五月日
 五株
 五日ぶり
 いつかほど
 五日前
 五日まり
 いつかーむ
 五日六日
 いつかーむ
 いーつがむ

一 一 三 一 一 五 三 三 一 一 二 六 二 一 一 二 一

" 七 " " 哭 " " " 五 四 " " 三 " " 三 四

五目
 一つーかーも
 一つーから
 一つがり
 一つがる
 一つかーるる
 一つかーれ
 一つかーれーいます
 一つかーれーし
 一つかーれーたまふ
 一つかーれーて
 一つかれびと
 一つかーれーましし
 一竿
 一艦
 一閑張
 一艦必殺

二 三 三 五 一 一 四 二 一 一 三 二 二 二 五 一 五

〃 五 〃 〃 〃 五 〃 〃 〃 五 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一貫目
 一基
 一騎
 斎き
 一揆
 一機
 一旗
 五十機
 一期
 一喜一憂
 いーつぎーいーつぎ
 いーつぎーいーつぎーに
 いーつぎーつぎーに
 一休
 一球
 一休庵

一 一 一 三 一 一 一 一 一 一 三 四 二 四 三 二 四

〃 〃 〃 六 〃 〃 〃 〃 〃 〃 六 六 六 五 五 〃 五

一休禪師	一	畚	いつきーたる	四	畚
いつきーおく	二	〃	いつきーて(凍)	一	六
一氣呵勢	一	〃	斎きーて	四	〃
いつきーかためーし	一	〃	斎きーてーし	二	〃
一 掬	一	〃	一氣に	六	〃
いーつぎつぎ	一	畚	いつきーにーけむ	一	畚
いつきーきーて	一	〃	いつきーにーし	一	〃
いつきーきーへーし	一	〃	いつきーぬ	一	〃
いつきーけむ	一	〃	斎主	一	〃
いつきーける	二	〃	いつきーぬ	一	五
斎児	一	突	五つ木の子守唄	一	〃
いつきーこーし	二	〃	いつきーのーみこ	一	〃
いつきーし	五	〃	いつきーのーみや	四	〃
いつきーしまーのーみや	一	七	斎きの宮跡	一	共
いつきーしまみや	一	〃	いつきーはてーてーき	一	〃
いつきーじんぐう	一	〃	斎人	一	〃
斎田	一	〃	一級国道	一	〃

一戸
 一壺
 齋子
 いづこ
 いづこーあたり
 一刻
 一国
 一刻千金
 一石路
 一石橋
 一刻前
 一剋者
 一個小隊
 いっこーせーぬ
 いっこべ
 いづこら
 巖凝

一 一 一 一 一 一 一 二 二 七 二 二 七 一 一

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一箇
 何時頃
 五声六声
 一痕
 一茶
 一歳
 一切
 一再
 一斎（人の名）
 一切経
 一切経文
 一才児
 一切事
 一切衆生
 一斎先生
 いっさいに
 一切蔵

一 一 一 一 一 一 一 一 二 二 二 二 二 三 一

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一週間ぶり	一	三五
一週間分	一	〃
一週忌	八	〃
いつしうするーと	一	三六
いつしうせーし	一	〃
一週年忌	一	〃
一週年目	一	三七
いつしか	二七	〃

合 計 四、三二 首

いつか【副詞】

わが子らもいつかはおのが子と呼ぶと
笑みてこの母を思ひいづらむか（現代短歌全集）

わが父の顚頂もいつか禿げたまひ姉らも多く子をもちて老いぬ（新萬葉集一）

わがつぐる鎌倉歌もいつかまたしどろもどろとなりて秋ゆく⑫

我が庭に何日か棲み着き溝鶴鵲^{みせさぎ}落葉に紛れ遊ぶかそけさ⑬

わが庭にいつか伸びたる名も知らぬ一本の木の茂りゆたけき⑭

若葉若葉病みぬればもの見れば涙なかる天地いつか夏に入りけり①

わが二人ここに老いつついつかまた嘆く日は来む一人となりて⑤

わが船の甲板ちかくつき来たる鷗はいつか雪にまぎれつ（新萬葉集一）

わが前に散りてうかびしもみぢ葉のいつかとなり湯へ流れてありけり③

わかれ路を惜むころのさみだれにぬれし袂はいつか乾かむ

別れてはいつか逢ふべき路のべの篤竹の葉に照る日の光①

いつか

中	岩	吉	若	市	田	塚	安	下	池	野
河	本	井	林	山	波	田	藤	村	袋	沢
幹	多		牧	盛	御	菁	佐	海	清	柿
子	加	勇	春	雄	白	紀	貴	南	風	茸

いつか

別れてはいつかまた見む夕かげの野に鳴く虫にひとと佇む（朝霧）

忘れては又おもひ出でよ玉勝間いつか会はむと言ひしならねど③

僅かなる麦に案山子を立てをりていつか真剣に我のなり居る②

わびしさもいつか慣れにし若妻をにくしと見つる年つくる宵②⑤

わび住みを寂しむ思ひいつか消え^{たきび}焚火も消えて夕さりにけり②①

笑ひさへ冷たくなりぬ身もいつか草木のごと枯れしなるべし①⑦

笑ひつつ涙おとさじとむかひをり今別れなばいつか又あはむ②

われいつか己が心もうち忘れ夕ぐれ時の来るをば待つ③

われいつか氣狂ひとなる日のあらむふと見し鏡見のがしがたし②

われに倚りてドリトル先生の鸚鵡のこと話しぬし子のいつか眠れり①

われの身にいつかつきぬし夜の匂運ぶがごとく丘を下りぬ③

我を挙げて人をあはれと思ふ日のいつかは来らむ遙かなりけり

奥貫信盈

柳原白蓮

高安国世

窪田空穂

吉井勇

吉井勇

松田常憲

松村英一

今井邦子

黒沢武子

高橋希人

北原白秋

われいつか流沙の辺をさまよへば誰にも姿は見られぬねがひ③

前川 佐美雄

園児らとあそびてをれば春の日のながきもいつか忘れにけり(新萬葉集七)

松井 緑水

をかしさは、いつかインクの無くなれる万年筆を、携へしかな①

土岐 善麿

屋上庭園の草花などが吹かれゐて秋の風にいつかわれも吹かるる(新萬葉集二)

安部 忠三

屋内にいつか笹葉をひろげゐるこの若竹は露たもちつつ

前田 夕暮

幼きはわれの好みをいつか知り草花などを摘み来りけり(冬空)

岡 麓

幼子と積木遊びてみづからの遊びのごとくいつか為しをり④

高橋 希人

幼児の僅かなる飯煮る鍋のしづかになりいつか停電しゐる②

高安 国世

遠方にけふ見えそめぬふじの山ふもとのあたりいつか過ぐらむ①

落合 直文

をとこは身だしなみよといつかわれより若かりし日の父のいひたる⑤

小宮 良太郎

をとめ子の今朝の浜出に言ひしこといつか来なむと言哭きにけり⑥

沢 遼空

少女さびいつかすらんといはけなき振分髪を撫でて思ふかな⑥

島木 赤彦

いつか